

平成三十年度入学式 式辞

札幌保健医療大学保健医療学部看護学科百二十三名、栄養学科二十二名の新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。ご家族、保護者の皆さまにも、お祝い申し上げます。

また、本日、ご多忙なか、本学入学式にご臨席を賜りましたご来賓の皆さまに感謝申し上げます。

本学は、学校法人吉田学園 札幌保健医療大学として平成二十五年四月に開学し、今年が六年目となります。昨年度に栄養学科を開設し、新たな大学として再出発しました。本日、看護学科第六期生、栄養学科第二期生のみなさんを迎えられることを慶び、本学を代表して心から歓迎します。

札幌保健医療大学は、地域、特に北海道の保健医療福祉の発展と拡充の一翼を担う医療人を育成する大学として、地域の皆さんの誰もが共通してもっている「健康で幸せな生活を送りたい」という願いに応えること、社会に役立つことをめざして開設されました。

少子高齢化社会を迎えた今日、単に「病気を治す」「病気にならない」保健医療から、健康生活の質、いわゆる QOL の向上を大切にした保健医療へと変化しています。つまり、誰がどこに住んでいようとも、子どもたちが健やかに育ち、若者たちが生き生きと活動し、高齢者が健康に老いる幸せな生活を送ること、また病者は安心して療養生活を送る中で病気の回復を図り、その人らしい健康と生活を取り戻すことを実行できる専門的支援が求められているのです。

この保健医療の質的变化に対応するには、保健医療に携わる専門職が互いに連携し協働するチーム活動が不可欠です。現在では、地域の人々からもその実績が評価されつつあります。チームのなかでも、看護師・保健師は人の命を守り、心と身体の健康機能の全てを生活面から整える支援することであり、また管理栄養士は人の命をつなぎ、生きる源となる栄養と食生活を支援することにあります。看護職と管理栄養士は、病院、学校、産業施設、保健・福祉施設、地域など同じ活動拠点において、どのような健康レベルにあらうと

も、その人の生命力を最大限に発揮でき、より健康的な生活を送ることができるよう、健康の質を高めるという共通の使命をもつ最も身近な医療人であり、今後の保健医療のチーム活動を牽引する重要な役割を担っています。

我が国の保健医療、特に北海道の現状をみると、保健医療福祉の地域格差、医師や看護師・保健師不足のほか、地域の管理栄養士も不足しており、道民の低栄養問題が健康を蝕み、病気の発症や健康寿命に影響するなど、北海道が取り組まなければならない課題の一つとなっています。このような現状だからこそ、保健医療学部として看護学科と栄養学科をもつ本学の地域で果たすべき責任と、医療人として未来の地域保健医療を担うみなさんへの期待は大きいのです。地域からのこの期待にしっかりと応え、社会に役立つ学びをしてほしいと思います。これからの四年間、みなさん一人一人の学びが、人の命と健康生活に直結していることを肝に銘じて下さい。

さて、

新入生のみなさんは、大学で何を学び、大学に何を期待しているのでしょうか。

札幌保健医療大学は、本学の教育理念「人間力教育を根幹とした医療人の育成」を日々の教育を通して実現できるよう、教職員一体となってきめ細やかな学生指導・教育を行っていくことを旨としています。

本学で養ってほしい人間力とは、人の思いや苦悩を汲みとる「豊かな感性」、常に真理と善を追い求め、公共の使命と責任を全うしようとする「高潔な精神」、人としての道理に合った判断と行動の拠り所となる「確かな知力」です。また、みなさん一人一人が、社会のなかで異なる価値観や個性をもちながらも互いに認め合い、他者とともに生き、「共存」できる人として育ててほしいと願っています。

江戸時代に、「養生訓」を著した有名な儒学者貝原益軒は「学び」について次のように記しています。

人、生まれて学ばざれば、生まれざると同じ。

学びて道を知らざれば、学ばざると同じ。

知^{あた}って行うこと能わざれば、知らざると同じ。

(慎思録)

これは、人と動物との違いは学びの能力にあること、たとえ博識であっても、人としての正しい道を知らなければ学んでいないと同じであること、また人の道を知っても実行して自ら活かすことができないのなら、知らないことと同じである、というものです。益軒は「人としての学び」に「人間特有の存在意義」を説き、社会や他者のために行動することで人としての学習が完結していくと説いています。札幌保健医療大学の掲げる「感性」「精神」「知力」「共存」の四つの「人間力」の育成は、人が人として成長していくための普遍的な学びの力なのです。

みなさんが人間力のある医療人として成長していくために、本学において二つの課題に取り組んで下さい。

まず一つ目は、人間や自然・社会文化、そして専門分野に必要な基礎知識、技術、態度をしっかりと身につけることです。四年間、大学生の本分である学業に専念し、まじめに取り組んで下さい。

また二つ目は、保健医療は人の命と健康、人の生活に関わる専門分野です。専門職をめざすみなさんには、「人間とは」、「いのちとは」、「健康とは」、数限りない問いを自ら発し、考え、答えを導き出すことで、新たな知識や価値を発見する学習を追究して下さい。

人は、疑問や葛藤、悩みをもつことで、自分の中にある漠然とした、モヤモヤした何かを明らかにしたい、解決したいという人間らしい欲求が生じ、自分で考えること、調べることを触発し、その解決に向けて行動する一連の体験によって学習を主体化するのです。学習の主体化とは、体験からの学びが自分の精神と身体の中に浸透することで「身につけ

る」ことをいいます。

疑問をもち、問題を発見し答えを導き出す力は、単なる知識の暗記や寄せ集めだけでは身につけません。知識を理解する力、創造的に思考する力、問題の本質を見抜く洞察力、さらに自己の行動や態度を見つめ直す力が必要です。これらの能力を養う上で最も基本となるのが、コミュニケーションする力です。これらの力は、家族と語らい、友人や教職員と交流し、ともに活動すること、また学外実習で出会う多くの病者とその家族、地域の人々、実習指導者との関わりなど、本学での学業と生活の体験を通して養われます。みなさんは、一つでも多くのことを体験し、学びを深め、本学の教育理念である「人間力」をより豊かに育み、医療人としての資質・能力を養ってほしいと思います。

最後に、今日晴れて札幌保健医療大学の学生として、看護師・保健師、管理栄養士への夢と希望をもってこの入学式に臨んでいることと思います。みなさんは、新しい道に進む不安と葛藤を乗り越え、今、夢を叶える第一歩を踏み出そうとしています。このスタート地点に立つ日まで、ご家族や友人、高校の先生など、多くの方々がみなさんの側にいて励まし、支えて下さったかを今一度思い起こして下さい。本学は私立大学です。みなさんの夢を叶えるためのご家族のご負担は並大抵なものではないことを心に刻み、感謝の気持ちを忘れないで下さい。そして、みなさんがご家族の思いに唯一応えられるのは四年間勉学に勤しみ、それぞれの夢を実現することです。

札幌保健医療大学は、みなさんの学びへの挑戦を応援し、夢の実現のために、全力でサポートします。

今日は、本当におめでとうございます。

平成三十年四月三日

学長 稲葉 佳江